

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立新田小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 92人

② 算数 91人

5 留意事項

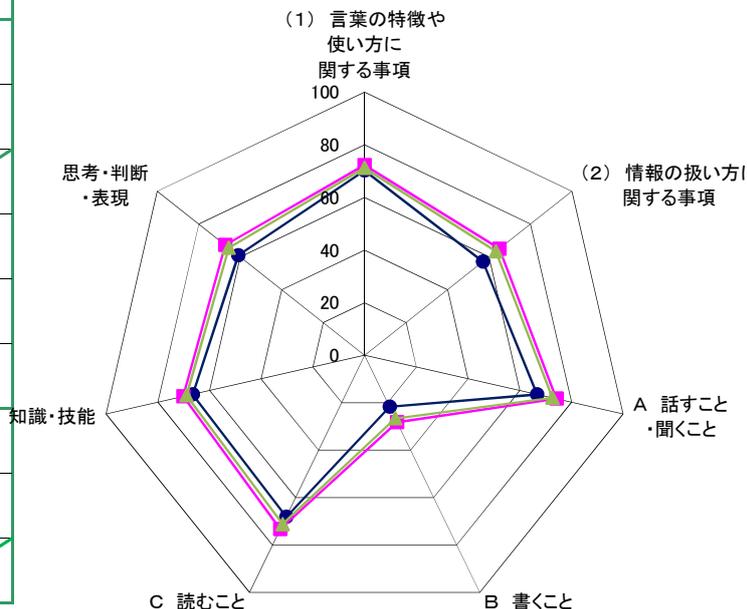
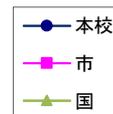
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立新田小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	70.2	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	57.1	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	66.7	74.2	72.6
	B 書くこと	21.7	28.2	26.7
	C 読むこと	68.1	73.3	71.2
観点	知識・技能	66.5	70.2	68.9
	思考・判断・表現	60.9	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



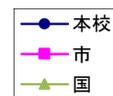
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う」問題の正答率は、国の平均を1.5ポイント上回った。 ●「文章の種類とその特徴について理解しているか」の問題の正答率は国や県より下回った。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題では、無回答の割合が、どの問題でも上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字を学習する際は、漢字の意味も含めて理解して使えるように、文章の中で使う練習をするなどの時間を取るようにする。また、朝の学習の時間を活用し、小テストや漢字練習に継続的に取り組むなど、知識の定着を図る。 ・漢字学習に意欲的に取り組めるように、自身の知識の定着を実感できるような振り返りを行う。
(2) 情報の扱い方に関する事項	●「原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうか」の問題の正答率は、国や県の平均より5ポイント以上下回った。 ●「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができるか」の問題の正答率は、国や県の平均より5ポイント以上下回った。	・説明文を読む際には、原因と結果を丁寧に押さえながら、伝えたいことを考えさせるようにしていく。 ・資料や図から読み取れる情報を整理するとともに、語句と語句の関係を線に引くなどして捉えさせ、文章の繋がりを理解できるようにさせる。
A 話すこと・聞くこと	○「目的や意図に応じ話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる」問題の正答率は7割を超え、国の平均と同等程度であった。 ●「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」問題での正答率は、国の平均正答率より約9ポイント下回った。	・授業の中で、自分の意図や思いをもって表現したり、友達のことを聞き、伝えたいことは何なのかを考えたりする時間を確保し、それを基に意見交換をする場を設けるようにする。 ・国語以外の教科でも、話し合い活動をする際には、自分の考えを構成的に発表できるように指導する。
B 書くこと	●「図表やグラフを用い、自分の考えを工夫して書き表す」問題の正答率は、国や県の平均より5ポイント以上下回った。	・図や表の見方や特徴を確認し、その上で、自分の考えを明確にする時間を確保する。分かりやすく書くポイントを提示するなどし、自分の考えを工夫して書けるようにする。 ・自分が書いた作文や資料を、自力または相互で推敲できるように指導する。また、完成した文章や行った活動のよさを自らまとめることができるようにする。
C 読むこと	○「目的を意識し、中心文を見付け、要約する」問題の正答率は、9割近く正解することができた。国や県の平均とほぼ同程度であった。 ●「目的に応じて、文と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付ける」問題の正答率は、国や県の平均を4ポイント以上下回った。	・筆者の考えを、根拠となる言葉や文章、図表とを結び付け、自分なりの言葉でまとめる学習活動を取り入れる。 ・説明文の読み取りにおいては、段落ごとの要旨をもとに、文章全体の構成について自分で考える時間を十分に確保する。

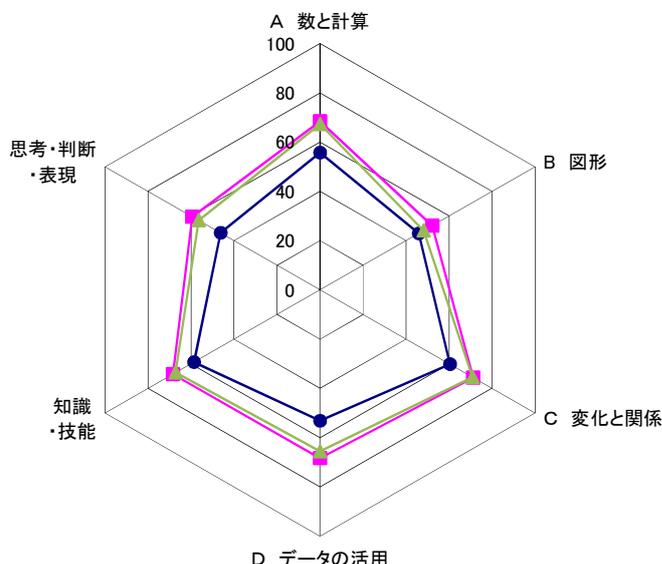
宇都宮市立新田小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】



分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	55.7	68.4	67.3
	B 図形	45.9	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	60.4	71.2	70.9
	D データの活用	53.1	68.3	65.5
観点	知識・技能	58.6	68.4	67.2
	思考・判断・表現	46.2	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●「()を用いた式や、加法と減法の混合した式を場面と関連付けて読み取る」問題の正答率は、市の平均正答率より16.6ポイント下回っている。 ●「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、「分配法則を用いたりする」問題の正答率は、市の平均より16.5ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような順番で計算すればいいのかわきを確認するために、加減乗除や()を伴う計算のきまりについて指導する。 ・交換法則、結合法則、分配法則について、整数だけではなく、小数や分数においても成り立つことを確認し、問題を解く場面を設けるようにする。 ・自分がどこで間違えたのかを明確にするために、計算途中や筆算の跡を残すよう指導する。
B 図形	<ul style="list-style-type: none"> ●「台形の意味や性質について」の問題の正答率は、市の平均より14ポイント下回っている。 ●「正三角形の意味や性質について」の問題の正答率は、市の平均より3.7ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の性質や感覚を豊かにするため図形を構成したり分解したりする操作活動を多く取り入れ、横、縦、高さの三つの要素について体験的に捉えさせる。 ・具体物や半具体物を用いて、図形の特徴を視覚的に捉えたり、図形の描き方や面積・体積の求め方をより具体的に説明したりできるようにする。 ・公式をただ暗記するだけではなく、どうしてその公式になるのか考えさせる場面を設ける。
C 変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> ●「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する」問題の正答率は、市の平均正答率より17.9ポイント下回っている。 ●「伴って変わる二つの数量が比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いる」問題の正答率は、市の平均より11ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表に当てはまる数を考える際に、与えられた表の中のきまりを見つけてあげることができるよう、表の見方を指導する。 ・比例の指導をする際に、比例にならない問題場面も提示し、比例する問題と比較して考えられるようにし、知識の定着を図る。
D データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ●「二次元の表から、条件に合う数を読み取る」問題の正答率は、市の平均より19ポイント下回っている。 ●「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み取り、見出した違いを言葉と数を用いて記述する」問題の正答率は、市の平均より16.8ポイント下回った。さらに、無回答率は約2割で、市よりも4.8ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられたデータのなかから、必要なことを読み取ることができるよう、普段の授業からポイントとなる数や語句に下線や色を付けるよう指導する。 ・グラフから分かる情報を、自分の言葉でノートに書かせるなど、分かったことを文章で表現できるように指導する。 ・解答すべてが分からなくても、短い言葉や単語等で答えを表現できるよう指導する。

宇都宮市立新田小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがある」と回答した児童の割合は70.7%で、国と比べて10ポイント上回った。「先生は、よいところを認めてくれる」「人の役に立つ人間になりたいと思う」という設問には9割以上が肯定的に回答していることから、自己肯定感が高く、意欲的に学校生活を送っている児童が多いと考えられる。今後も、学習や学校行事などで達成感や有用感がもてる教育活動を推進するとともに、家庭とも連携をとり、子どもたちが「よさを認められている」と感じられるように、指導や声掛けの工夫をしていく。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と肯定的な回答をした児童の割合は97.9%で、昨年度よりも6.3ポイント上回った。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」と肯定的な回答をした児童の割合は94.5%で、助け合うことの大切さを理解し、実践しようとしていることが分かる。日常的な指導のほか、「いじめゼロ集会」を高学年児童が中心となって開催することにより、児童自身が「いじめ」について真剣に考えることができていると考えられる。

●「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」と肯定的な回答をした児童の割合は69.6%で、国と比べて9.9ポイント下回った。今後も引き続き、多様な考えがあってもよい、失敗したり間違えたりしても大丈夫だという安心感のある学級経営をしていく。

●「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と肯定的な回答をした児童の割合は、66.3%で、県と比べて9.8ポイント下回った。「学校以外に1日に勉強をする時間」は、平日が「30分以上1時間より少ない」と回答した児童が40.2%、休日は「1時間より少ない」が38%で最も多かった。また、「全くしない」が平日で7.6%、休日で25%であり、家庭学習の習慣が十分身に付いていないことが分かる。宿題だけでなく、自主学習に取り組むよう励ましたり、頑張っている児童の取り組みを紹介したりして意欲喚起を図る。

●「学校の授業時間以外の読書時間」は、「2時間以上」と回答した児童が8.7%で県よりも2.6ポイント上回っていたが、「全くしない」と答えた児童が42.4%と県を大きく上回っており、読書への関心に大きな差があることが分かる。また、新聞を読んでいる児童も8割を越えていた。新聞を取っていない家庭も多いので、図書館に置いたり、教科の学習の中で活用したりして関心を高めたい。今後も引き続き読書指導に力を入れていく。

●「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し次の学習につなげることができていますか」で肯定的な回答をした児童の割合は、66.3%であり、県よりも13.3ポイント下回った。また、「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」の肯定的な回答は73.9%で、県よりも10.9ポイント下回った。本時の学習内容が次の学習やほかの学習につなげていくことを意識し、振り返る視点をより明確にして指導していく。

●「国語、算数の勉強が好きですか」の肯定的回答の割合はそれぞれ、国語63%、算数47.8%であり、国語よりも算数への苦手意識をもっていることが分かる。しかし、「算数の勉強は大切だと思いますか」の肯定的回答が91.3%であり、関心はあるが、理解が不十分のために意欲が低くなっていると考えられる。反復練習による基礎基本の定着、解き方の理解を促す教材、指導方法の工夫をしていく。

●県と比べて英語への関心の高い児童が多いが、低い児童も多い。苦手な児童の意欲が高まるような授業を展開する。

宇都宮市立新田小学校（第6学年）

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的な学び	課題や発問を工夫し、児童が見通しをもって活動できるようにしている。	「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」の肯定的回答は72.9%で県よりも8.5ポイント下回っている。
表現の育成	基礎学力を身に付けるための指導を工夫したり、考えや思いを表現する活動を設定したりしている。	「自分の考えが伝わるよう工夫していたか」の肯定的回答は約4割である。「学んだことを生かしながら考えをまとめたか」では、7割が肯定的回答をしている。
学び合いの充実	1人1台端末を活用したり、ペアやグループ活動を取り入れたりするなど、互いの考えを共有する活動を設定し、話し合いを活性化できるようにしている。	「授業でICT機器を週1回以上使用した」と回答した児童が73.9%で、県よりも14ポイント下回っている。「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」では、8割の児童が肯定的回答をしている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・知識・技能を「活用」する問題や、根拠を示して説明したり、考えを書いたりする「記述」の問題に課題が見られる。	・語彙力の向上 ・文章や問題文の意図を適切に読み取る読解力の育成と作文技能の向上	・学習した言葉を定着させるために、授業の始まりや終わりに確認したり、指定した言葉を使った短文をしたりする。 ・「まとめ」や「振り返り」を書く際に、本時で習った言葉を必ず入れるなどの条件を提示し、簡潔な短文でまとめるなど、書くことに慣れるようにする。